

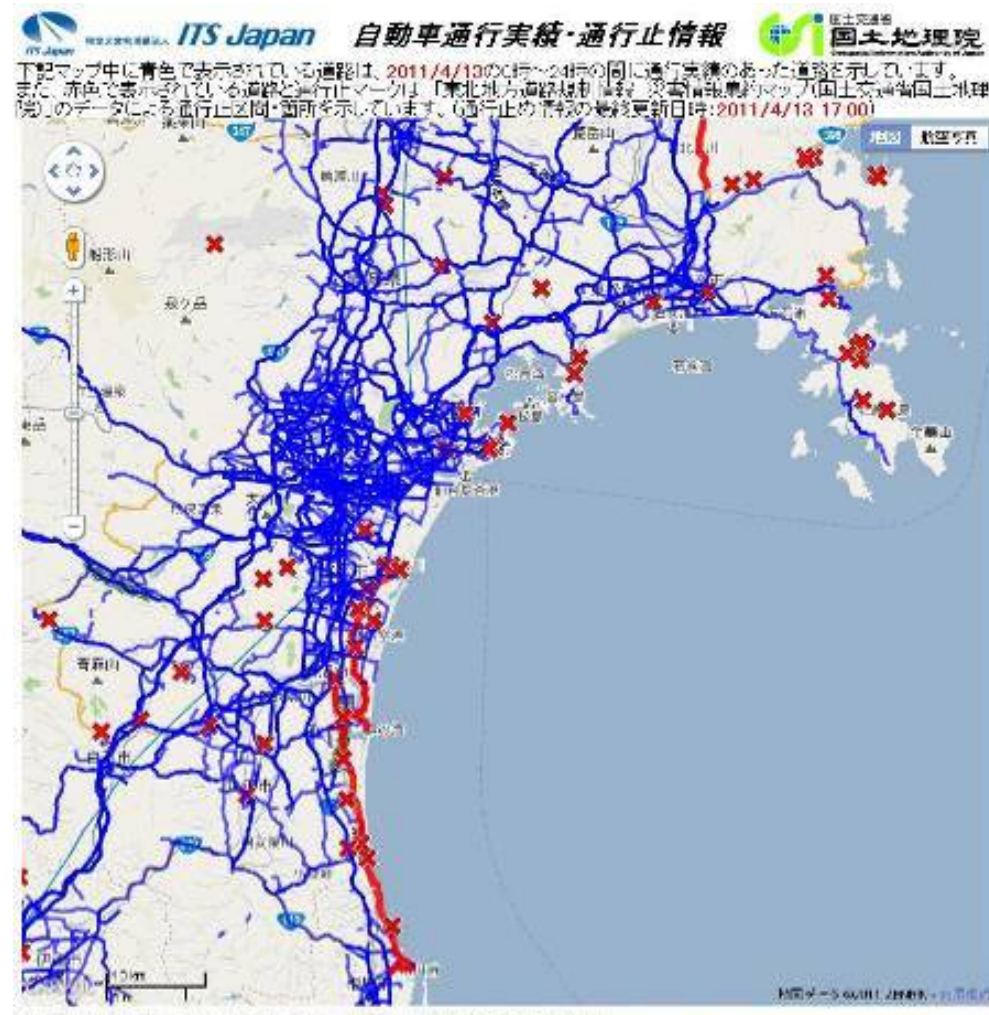
NISSAN MOTOR CORPORATION



災害時の交通路確保のための プローブ情報の活用

プローブ情報を活用した「通れたマップ」

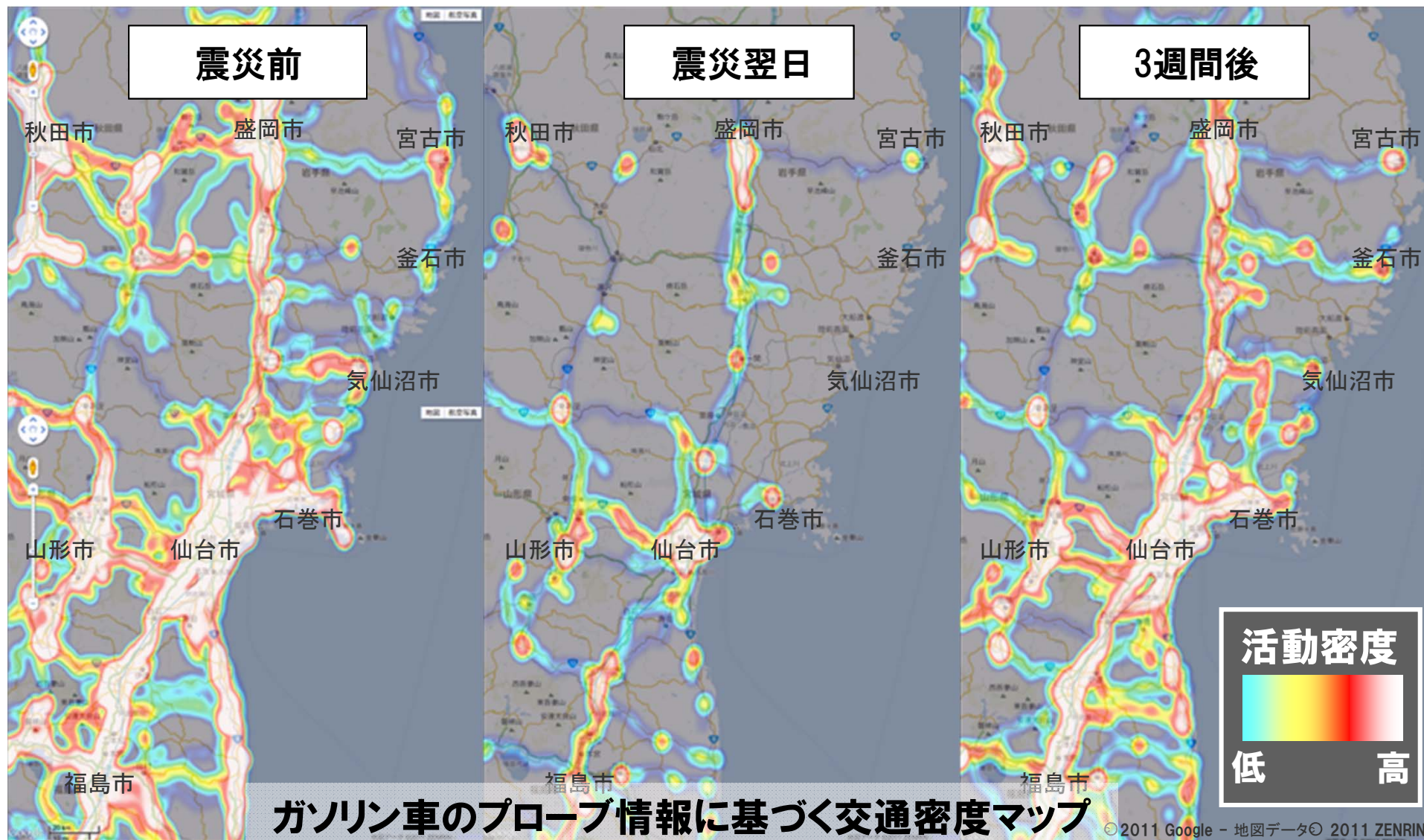
- 東日本大震災の発生後、トヨタ、日産、ホンダ、パイオニア各社のプローブデータをもちより、クルマが通っている道路、通っていない道路を解析し、災害普及に活用
- ただし、この情報は「通れた道」であって、「通ってもよい道」ではないため、さらに洗練された情報抽出手段の検討が必要。



Source: ITS-Japan web page
<http://www.its-jp.org/english/>

プローブ情報の活用例

- プローブ情報により、マクロな交通実態の把握が可能



ガソリン車のプローブ情報に基づく交通密度マップ

© 2011 Google - 地図データ © 2011 ZENRIN

巨大地震発生の可能性が予測されている

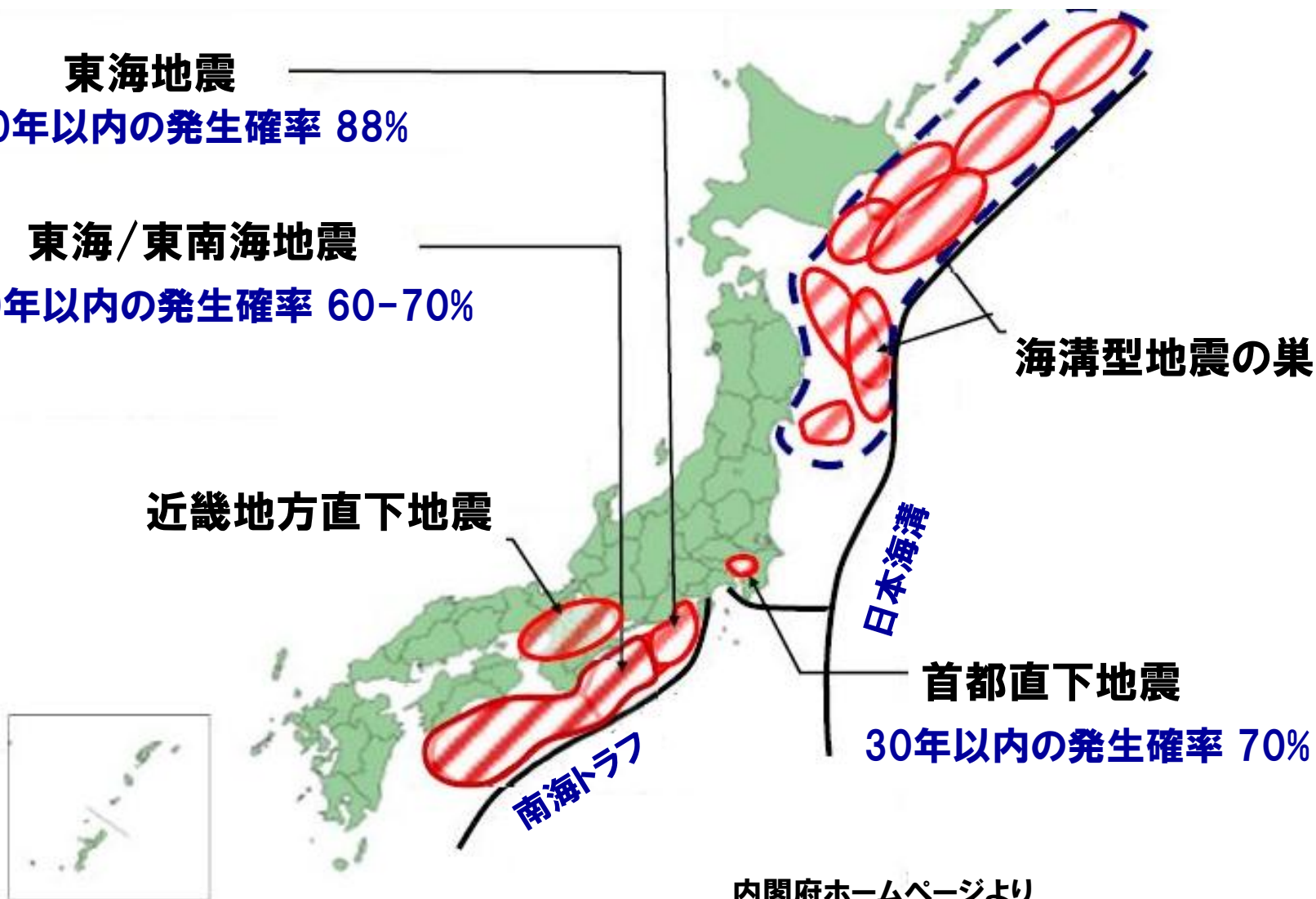
東海地震
30年以内の発生確率 88%

東海/東南海地震
30年以内の発生確率 60-70%

近畿地方直下地震

首都直下地震
30年以内の発生確率 70%

海溝型地震の巣



内閣府ホームページより

災害時の緊急交通路確保

- いざというときに緊急交通路が使えるかをいかに早く把握するかが大きな課題
- プローブ情報による交通流を日常から把握し、地震に備える必要がある、として検討が始まっている。

